

2025年後半～2026年最新登山ギアトレンド・新商品調査レポート

本レポートでは、2025年後半から2026年現在までに発表・発売された主要な登山ギアの新商品情報と、業界全体の大きなトレンドについてまとめます。

1. ウェア（ハードシェル、アクティブインサレーション、ベースレイヤー）

商品名	ブランド名	特徴・革新的な点	発売時期	参照元URL
トレントフライヤージャケット	モンベル	独自素材「スーパードライテック」を採用し、透湿性50,000g/m ² ・24hrsを実現。ストレッチ性と軽量性（233g）を両立。	2026年春	Outdoor Gear Zone
デュラブル・ダウン・パーカ	パタゴニア	800FPダウンを封入。迷路のようなユニークな縫製でコールドスポットを最小化。ウルトラ・PE・リップストップ素材で極めて高い耐摩耗性。	2026年春	Outdoor Gear Zone
R1ウルトラライト・フーディ	パタゴニア	R1シリーズ最軽量。しなやかで耐摩耗性に優れた新素材を採用。アルパインクライミング向けの「Free Wall Kit」の一部。	2026年春	Outdoor Gear Zone
Super Oreus Jacket	Mountain Equipment	次世代の合成インサレーション。ISPO Award 2025受賞。ダウンに近い保温性と化繊の耐水性を高次元で融合。	2025年後半	ISPO
ドラウトシェードシリーズ	finetrack	優れた通気性とUVカット機能を備えた新ベースレイヤー。日本の蒸し暑い環境に最適化。	2026年3月	finetrack

2. フットウェア（登山靴、トレランシューズ）

商品名	ブランド名	特徴・革新的な点	発売時期	参照元URL
Speedgoat 7	HOKA	超臨界EVAフォームを採用し、エネルギーリターンを向上。Vibram Megagripにマイクロスパイクを追加し、グリップ力を強化。	2026年2月	HOKA
Prodigio Pro	La Sportiva	高反発なミッドソールとカーボンプレートを搭載した競技向けトレランシューズ。超軽量かつ安定性が高い。	2026年2月	La Sportiva
Ribelle Tech 3 HD	SCARPA	登山靴とトレランシューズを融合。Polartec断熱材とHDry防水膜を採用。テクニカルな混合地形での高速移動に最適。	2025年後半	SCARPA
トレールハイカー	モンベル	独自素材「ドライテック」を登山靴に初採用。高い防水透湿性を維持しつつ、大幅なコストパフォーマンス向上を実現。	2026年春	Outdoor Gearzine
Summit VECTIV Pro 3	The North Face	改良されたカーボンプレート構造と新開発のソール素材を採用。ISPO Award 2025受賞。	2025年後半	ISPO

3. バックパック

商品名	ブランド名	特徴・革新的な点	発売時期	参照元URL
Atmos AG LT 65	Osprey	定番のAtmosを軽量化（LT）。Anti-Gravityサスペンションの快適性を維持しつつ、無駄を削ぎ落としたミニマルデザイン。	2025年後半	Osprey
Baltoro (2026モデル)	Gregory	背面パネルとサスペンション構造をマイナーチェンジ。より個々の体型にフィットするようサイズ設定を刷新。	2026年春	YouTube (Gregory)
Southwest 55 (Dyneema)	Hyperlite Mountain Gear	100%防水のDyneema素材を採用。2026年モデルでは耐摩耗性をさらに強化し、長距離スルーハイクに最適化。	2025年後半	Gear Junkie

商品名	ブランド名	特徴・革新的な点	発売時期	参照元URL
トレッキングバックシリーズ	モンベル	オールドスクールな雨蓋式デザインに回帰しつつ、最新の背面システムを搭載。最大100Lまで展開。	2026年春	Outdoor Gearzine

4. テント・スリーピングシステム

商品名	ブランド名	特徴・革新的な点	発売時期	参照元URL
ステラリッジテントトレール	モンベル	定番ステラリッジに待望の「長辺入口」モデルが登場。居住性と出入りのしやすさが大幅に向上。	2026年春	Outdoor Gearzine
Dagger OSMO (2026)	NEMO	独自素材OSMOを採用。2026年モデルはポール構造を刷新し、居住空間を22%拡大。サステナブルな製造工程。	2026年1月	NEMO
Hubba Hubba HD	MSR	定番Hubbaシリーズの耐久性強化モデル。より過酷な環境に対応する厚手の生地と強固なフレームを採用。	2026年春	MSR
NeoAir XLite NXT	Therm-a-Rest	従来モデルより静音性を向上させ、厚みを3インチに増加。R値4.5を維持しつつ寝心地を改善。	2025年後半	Therm-a-Rest
Spark (2026モデル)	Sea to Summit	850+FPの撥水ダウンを採用。非PFAS（フッ素化合物不使用）のUltra-Dry Down処理を全面採用。	2026年1月	Sea to Summit

5. クライミングギア（アイゼン、ピッケル等）

商品名	ブランド名	特徴・革新的な点	発売時期	参照元URL
DART (2026アップデート)	Petzl	フレックスバーとアルミニウム製ヒールパーツの採用により、従来比115gの軽量化に成功。	2026年	Mountain Project

商品名	ブランド名	特徴・革新的な点	発売時期	参照元URL
U.L.アルパインヘルメット	モンベル	重量わずか167g。EPP素材とポリカーボネートのハイブリッド構造で、最軽量クラスながら高い安全性を確保。	2026年春	Outdoor Gearzone
North Machine (New Gen)	Grivel	カーボンシャフトの形状を刷新。よりテクニカルな氷やミックスクライミングでの打撃精度と保持力を向上。	2025年後半	Grivel
Alpinist Tech	Cassin	テクニカルなアルパインクライミング向けに最適化された最軽量クラスのモノポイントアイゼン。	2025年後半	Vertical Addiction

2026年登山ギアの主要トレンド考察

2026年の登山ギア市場における最大のトレンドは、「**PFASフリー（脱フッ素化合物）**」への完全移行と**「超軽量化と耐久性の再定義」**です。

- 環境負荷低減の加速（PFASフリー）：**
Gore-TexのePEメンブレンや、Sea to Summitの撥水ダウンに見られるように、環境に有害なフッ素化合物を使用しない素材への切り替えが決定定的となりました。これは単なるエコ意識ではなく、欧米の規制強化に伴う業界全体の標準仕様となっています。
- 超軽量化と実用的な耐久性の融合：**
パタゴニアの「デュラブル・ダウン・パーカ」やモンベルの「U.L.アルパインヘルメット」に見られるように、単に軽いだけでなく、高強度な新素材（ウルトラ・PE・リップストップ等）を組み合わせることで、過酷な使用に耐えうる「タフな軽量ギア」が主流となっています。
- ユーザーニーズへの細分化：**
モンベルの「ステラリッジ・トレール（長辺入口）」や、各ブランドの「LT（ライト）」モデルの拡充は、定番商品の完成度を高めつつ、より具体的なユーザーの好みに応える多様化の傾向を示しています。

総じて、2026年は「環境への責任」を果たしながらも、素材技術の進化によって「軽さ」と「強さ」の限界をさらに押し広げた年であると言えます。